

## 編輯後記

## 投 稿 規 定

昭和十一年四月廿五日印刷  
昭和十一年四月三十日發行〔非賣品〕

○春色酣となりました。五月十日の大會の準備も着々と進行しつゝあります。どうか當日は、日本全國の會員が成可く多數に參會せられて、この記念會を出来るだけ盛會に致したいと思ひます。

展覽會の方も皆様の御盡力により色々珍らしい寫眞其他が大分揃ひました。古參の方は懐しき過去の思ひ出の爲めに、新進の方は先輩の努力の跡を偲びて發奮の資となるべく爲めに一瞥せられんことを希望いたしました。

○次號は愈々女醫誕生五十周年記念増大號と致します。特に古參の方々は、御勉學時代の思ひ出、興味ある資料など御送り下さらば幸甚に存じます。

○今度兵庫縣御影の幣原女史が同地に中產階級の乳兒の爲めに理想的托兒所を建設せられました。土地といひ、建物と謂ひ、就中その内容に至つては、最新科學の精を集め、而も家族的の温か味に溢れ、加ふるに篤學なる女史の獻身的技能を振るはるゝありて、眞に世界無比の理想的乳兒樂園が建設せらるゝことゝ期待して止みません。次號にはその『祥樹保育園』を御紹介したいと思ひます。

## ○口 繪

荻野吟子女史と其の筆蹟……石黒子爵に頌徳狀、吉岡女史に感謝狀を捧呈……女醫公許五十周年記念撮影……牛塚東京市長の祝辭其他……展覽會の一部……會場の一部

記念祝典に於ける私の所感……吉岡彌生（一）  
五十周年記念號に題す……福井繁子（三）

## 思ひ出草

## 次目號三十七第

## 報告 昭和拾壹年度豫算 會費領收 會員動靜 本年度新會員 萬國女醫會より

の通信……（四）  
會員の皆様に告ぐ……杉田鶴子（五）  
記念事業寄附金領收……（六）

全生病院の現狀……五十嵐正（三）  
愛生園の現狀に就て……小川正子（充）  
住宅建設の急務に就て……林文雄（全）

## 日本女醫公許五十周年祝賀會

開會の辭 総經報告 式辭 頌德表 感謝狀

祝辭 祝電……（六）  
祝女醫公許五十周年（和歌）河野桃野……

賀川哲子・杉田鶴子（俳句）多川澄……（三）  
女醫公許五十周年記念祝賀會

……………福田幹子（二）  
……………多川澄（五）  
……………（四）

展覽會開催について……多川澄（五）  
五十周年祝賀會後記……（四）  
○會報

日本女醫會第八回總會

昭和拾年度會計

發行所 東京市本郷區本郷二丁目三ノ六	編輯者 多川澄子
東京市芝區愛宕町二丁目一四	印 刷 者 谷本
電話小石川五七六番	發行者 杉田鶴子
振替口座東京三一九〇〇番	印 刷 者 大矢雅美
東京市目黒區鷺番町三十九番地	廣告申込所

# 五十年間、女醫數、變化圖(毎五年)

3500

3000

2500

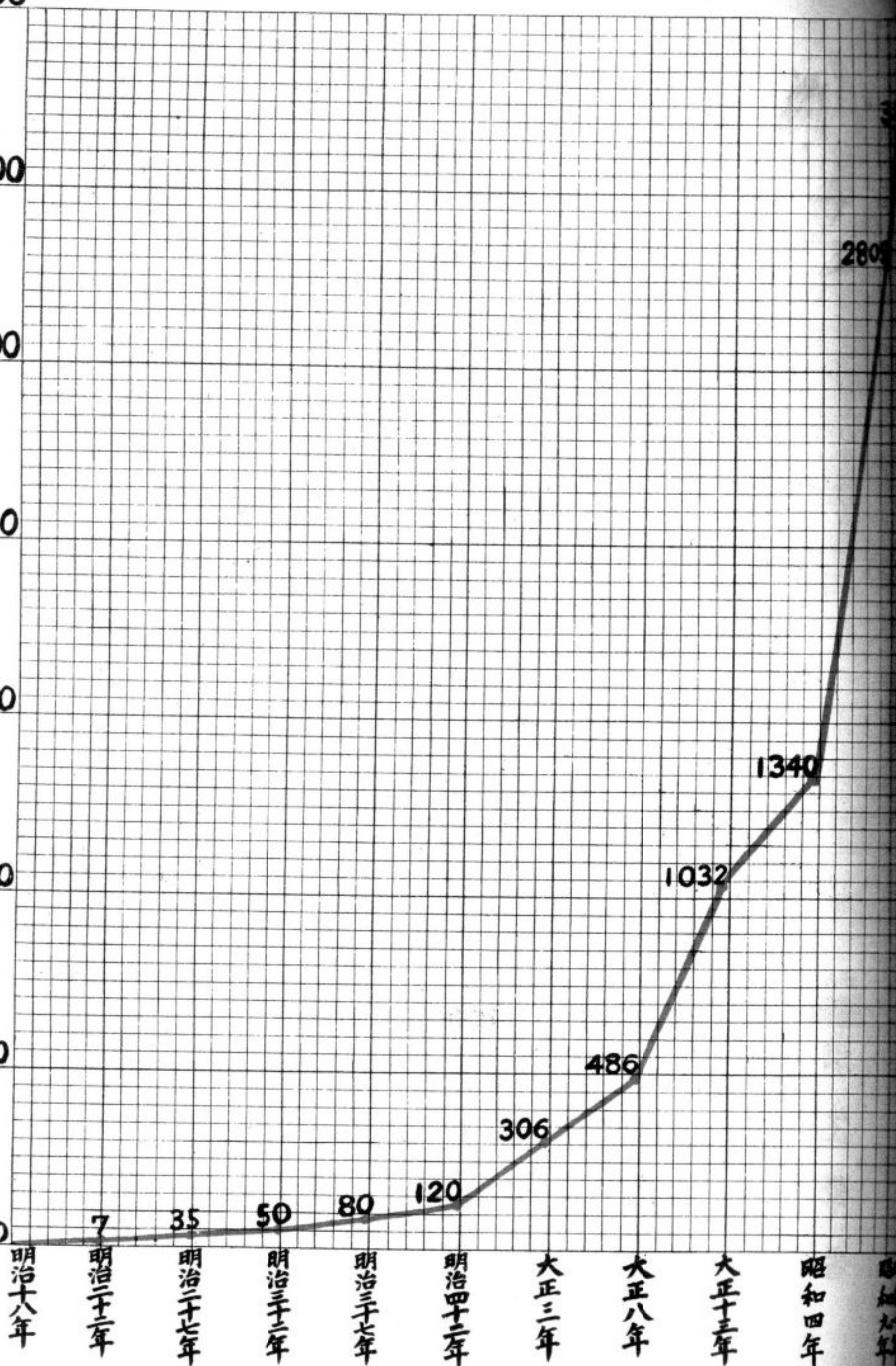
2000

1500

1000

500

0



り、横濱の水江靜子姉や小田原の田口あき子姉は、その爲めにわざと御多忙の中をさいて懐舊談を聞かせて下さつたり、澤山のめづらしい寫眞を送つて下さつたり、各方面に照會して下さつたり、ほんとに有難い事だらけであつた。又竹内茂代女史は、石黒子爵と長與專齊翁の御寫眞と筆蹟とを借用して下さつて、當日の會場に一段と光彩を添へたのであつた。

學校側即ち東京、帝國、大阪各女醫専からもそれと有益な資料を貸與されたのは感謝に堪へなかつた、ことに帝國、大阪二女醫専では展覽會の爲めに、わざと沿革や學校の行事、主なる業績等を印刷して與へられたのは五十年史を作る上にも好資料となり有難かつた。

さて寫眞はそれと假製の臺紙にはめ、これを立てかけ

る様に後ろに脚をつけ、碑文の様なものは清書して貰つて

假の掛地に貼り、當日は、朝九時過より上野精養軒の會場

に赴き、展覽會係諸姉の御盡力によつて、式場内の廊下に

面した所とその向ひ側との兩側に陳列し、晝までには全部

準備が出来上がつたのであつた。

當日の出品々目は左の通りであるが、尙ほ此の外にも重

復するものやあまり不鮮明なものなどは割愛したものもあ

つたが、それ等を除いても小さなものは數枚づゝ組合せて

- 1 石黒忠恵子爵閣下肖像
  - 2 石黒先生最近の筆蹟
  - 3 石黒先生著「懷古九十年」
  - 4 故長與專齊閣下肖像
- 額  
掛  
書  
籍  
一、一、一、一、

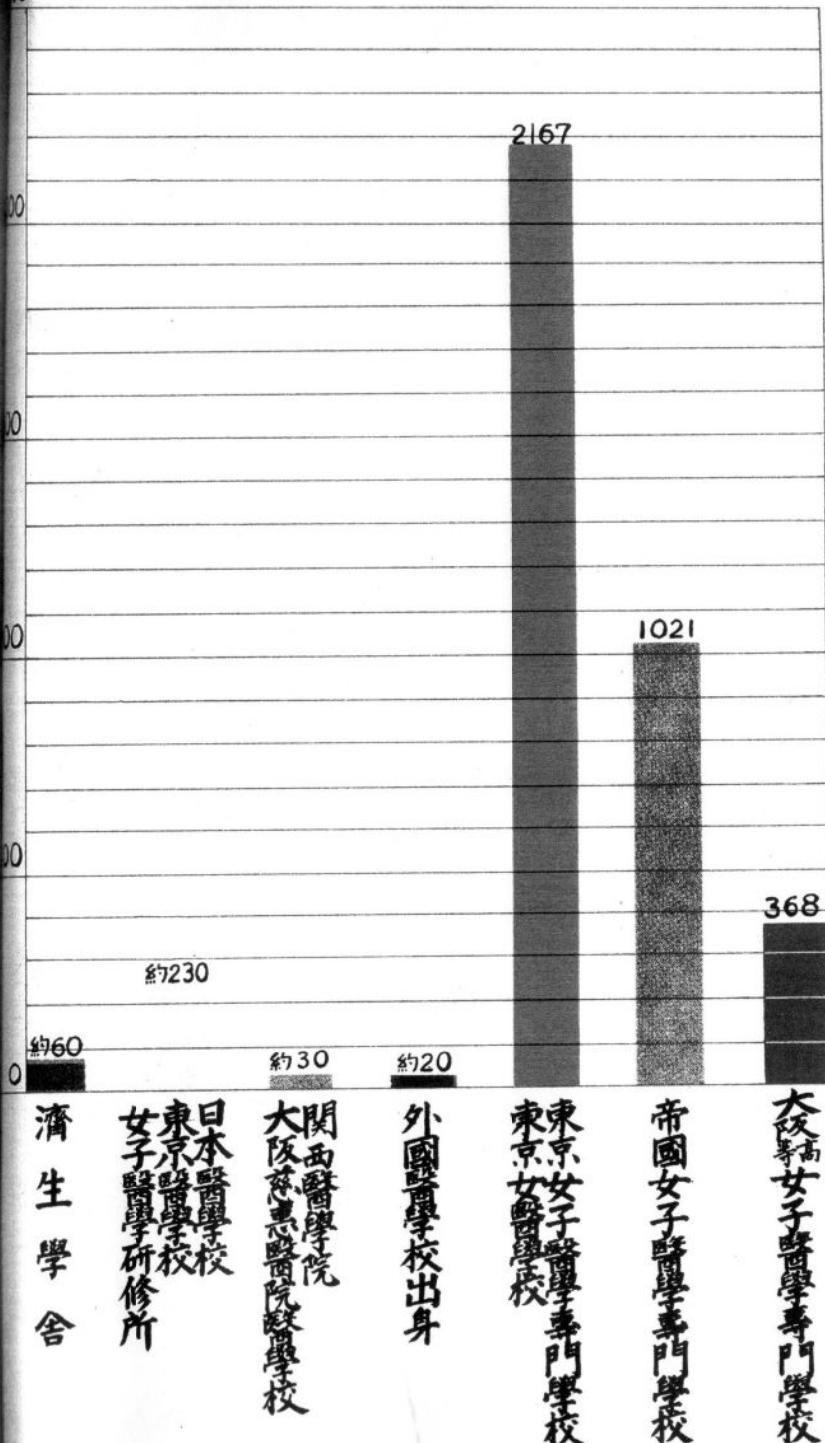
## 展覽會出品目錄

第一 女醫の恩人、先輩女醫、特殊の立場  
にある女醫、女醫と社會事業

一枚としても尙ほ且つ百點に越ゆるの出品展數で豫想したよりは賑やかなものになつた。

たゞ展覽會として遺憾であつたことは、あまりに出品の展覽時間短く、且つ會のプログラムに追はれて、會衆にゆづくり見て頂けなかつたこと、豫想外の盛會なりし爲め場内狹隘を告げ、精しく見るに不都合であつたことであつた。その展覽會場内の模様は、本誌の口繪及び此記事内の寫眞に示す通りで、先づ荻野女史の肖像を中心にして、その左右に石黒子爵、長與專齊氏の肖像を掲げ、花をかざり、物故せられた先哲女醫の寫眞遺墨、碑文等を並べ、大體、五部門に分類して展覽して見たのであつた。

# 出身學校別女醫數一覽（但死亡者ヲ含ム）



## 濟生學舍

日本醫學校  
東京女子醫學研修所  
大坂慈惠醫院醫學校  
帝國女子醫學專門學校

## 掛地物

21 下クトル井上友子女史米國留學時代寫真  
22 井上友子女史ミシガン大學卒業記念

23 下クトルメヂ、一ネ宇良田唯子女  
史獨逸留學時代

24 草津にて癲患者の爲一生を捧げた  
草津にて癲患者の爲一生を捧げた  
25 服部けさ子女史の日記、手紙  
26 服部けさ子女史逝去後その住宅を鈴蘭村  
に移転する費用を本會が寄附し、  
その住宅を服部館と名付けらる  
A、移轉當時の服部館

B、其後癲豫防協會に寄附され、  
改造成の後、國立癲生樂泉園内の  
患者住宅となる。

27 本會が患者病舎を寄附せんとする  
岡山縣長島の國立癲療養所愛生園  
と岡山長光田健輔博士

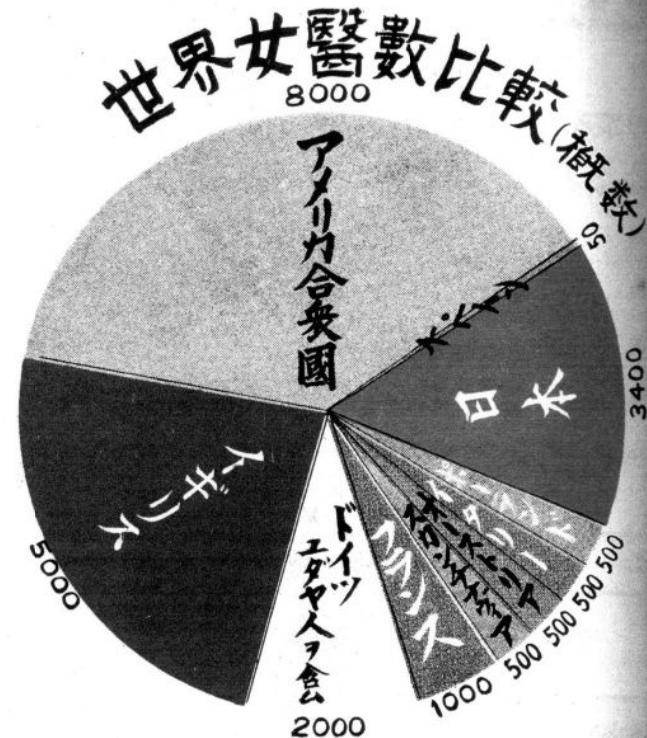
28 杉並區和田堀町救世軍療養所と所  
長岩佐倫子女史

29 幣原節子女史の祥樹保育園  
30 女醫の醫學博士

## 部の一の會覽展

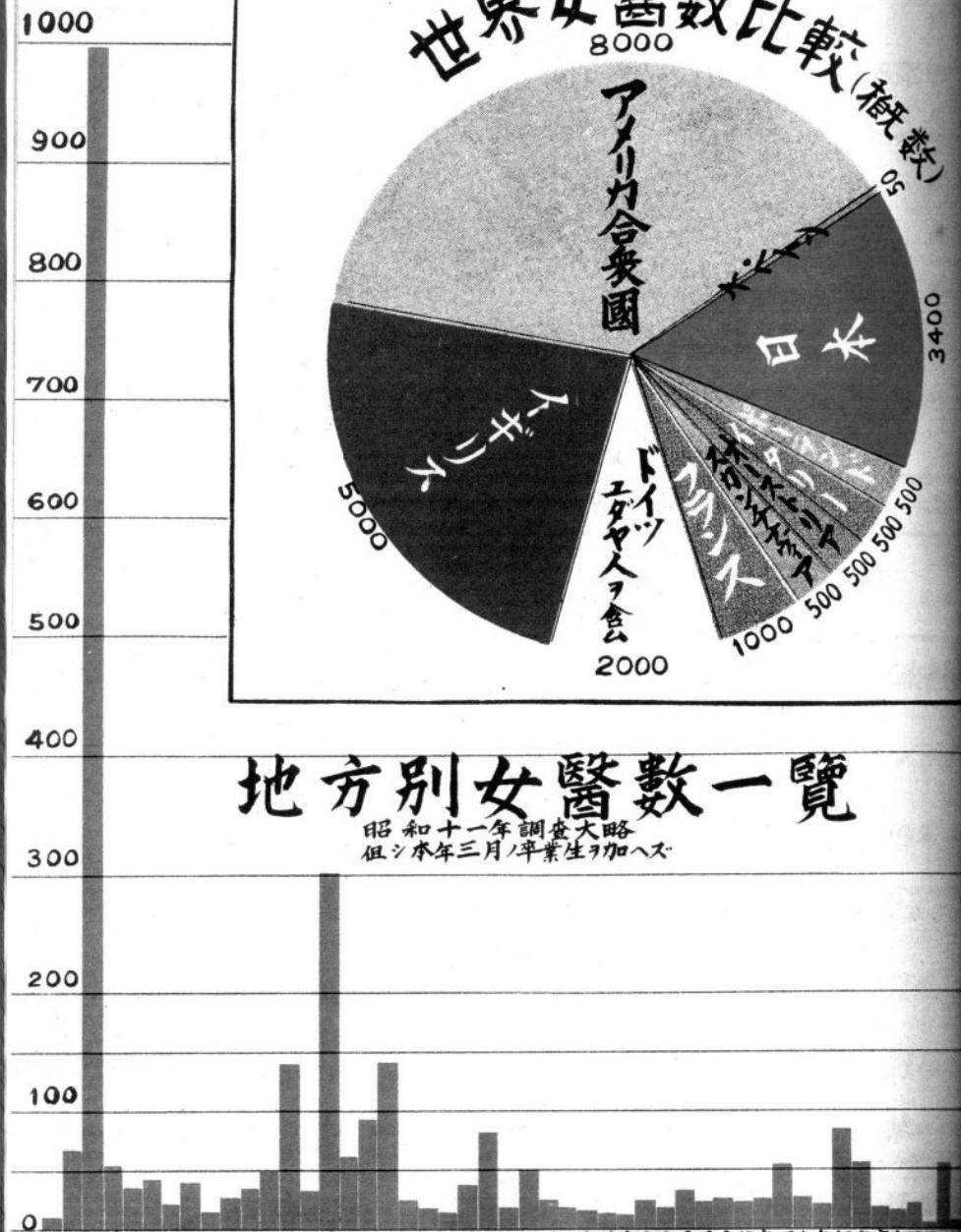
- 5 長與專齊先生書簡集
- 6 松香長與專齊先生書
- 7 松香長與專齊先生詩畫 挂地 一、
- 8 女醫の恩人、石黒忠惠、弘田長、田代義徳、高田畊安諸先生寫真
- 9 日本女醫の嚆矢故荻野吟子女史肖像額
- 10 壯年時代の荻野吟子女史と書簡
- 11 荻野女史筆和歌 短冊 二
- 12 荻野女史墓の碑文 寫
- 13 高橋瑞子女史並筆蹟、豪徳寺に於ける勳功碑の寫真
- 14 世田谷豪徳寺の高橋女史彰功碑の碑文
- 15 高橋瑞子女史書簡集
- 16 本多銓子女史自筆の講義筆記録十一冊
- 17 本多銓子女史令息本多法學士手記「母の想出」一
- 18 田端大龍寺にある右田朝子女史碑の碑文 寫
- 19 最古參の先輩女醫諸氏寫真  
(甲)物故せられし方々(一部分)氏名略  
(乙)現存せらるゝ方々(一部分)氏名略
- 20 前田園子女史渡韓記念寫真 三、

第二女醫と研究 勤務



# 地方別女醫數一覽

昭和十一年三月調査大略  
但シ本年卒業生ヲ加ヘズ



歐滿東千崎神柄群山淡長三兵滋大解京愛祭和山西新福宮岐福青秋岩富鳥島愛香德高岡山熊福廣宮長中  
米支京葉王川木馬梨城野重庫賀陵四都知良山而川浮島城草井森田手山取根媛川島知山口本岡島萬崎嶋端

- |    |  |   |
|----|--|---|
| 31 | 弘田博士の第一回小兒科講究會   | 上 |
| 32 | 佐伯博士の榮養學校講習  |   |
| 33 | 早く女醫を採用せる茅ヶ崎南湖院と勤務せし女醫の寫眞（河野<br>前田、高野、石坂、中村女史）                           |   |
| 34 | 女醫のみを歴代採用する婦人共立育兒會病院   |   |
| 35 | 同病院々長及び職員  |   |
| 36 | 女醫を早く採用したる大阪緒方病院   |   |
| 37 | 女醫にして初めて東大介補となりし整形外科教室に於ける北村<br>(水江 靜子女史)                                |   |
| 38 | 北村(水江) 靜子氏初めて明治四十四年四月、外科學會にて報告<br>演説をなせし時の演説材料寫眞                         |   |
| 39 | 油川たか子氏關西にベスト大流行せし時 志願して大阪桃山病院<br>に赴き勤務す。その時の(ベスト患者と院長、北里博士、油川<br>女史等)の狀況 |   |
| 40 | 濟生學舍修學時代の女醫學生寫眞 その一  |   |
| 41 | 同 上  |   |
| 42 | 濟生學舍修學時代の女醫學生寫眞 その二  |   |
| 43 | 同 上  |   |
| 44 | 丸茂文良氏主宰の醫學溫習會と女醫學生   |   |
| 45 | 女子醫學研修所學生及び講師  | 上 |
| 46 | 女子醫學研修所學生及び講師  | 上 |
| 47 | 東京醫學校學生及び講師  | 同 |
| 48 | 女子醫學研修所に學びし女醫學生と校長   |   |
| 49 | 東京醫學校學生及び講師  |   |
| 50 | 同 同 上  |   |
| 51 | 同 同 上  |   |
| 52 | 同 同 上  |   |
| 53 | 同 同 上  |   |
| 54 | 日本醫學校  |   |
| 55 | 同 同 上  |   |
| 56 | 同 同 上  |   |
| 57 | 同 同 上  |   |
| 58 | 同 同 上  |   |
| 59 | 大阪慈惠醫院醫學校に學びし人々と校長緒方正清氏  |   |
| 60 | 關西醫學院學生及び講師  |   |
| 61 | 東京女醫學校學生及び講師及び職員 (明治三十九年)  |   |
| 62 | 東京女醫學校學生及び講師及び職員 (明治三十九年)  |   |
| 63 | 東京女醫學校第一回卒業生記念撮影   |   |
| 64 | 東京女子醫專指定祝賀會 (大正九年帝國ホテル)  |   |
| 65 | 東京女子醫專の現況  |   |
| 66 | 東京女醫專卒業生アルバム、東京女醫學會雜誌、其他   |   |
| 67 | 帝國女子醫專の現況  |   |

# 萬國女醫會覽一

開會年月日	場所	題	發會式	委員會	大策一會	委員會	大策二會	委員會	大策三會	大會
日本出席	井上支那	紅育	元正十八年九月廿四日	九二(大正十年九月廿四日)一週間	詳考士兵之道德及健康	問題木會ヨリ日本文醫院送達	九三(大正十三年七月)	倫敦不詳	九四(大正十三年七月)	出席席
日本出席	日本出席	宿題	九五(大正八年九月廿四日)	九三(昭和三年四月廿四日)	三全身調、閏久ル醫師法	米利	九六(昭和三年四月廿四日)	三全身病、眼科、門係	吉慶	委員會
日本出席	日本出席	巴里	巴里無痛分娩燒法	九七(昭和四年四月廿四日)	一性教育	吉慶	九八(昭和四年四月廿四日)	一無痛分娩燒法	吉慶	大策二會
日本出席	日本出席	維納	維納等傳媒人對又法律上保護	九九(昭和九年八月廿四日)	異國於女醫仕帶	吉慶	一〇〇(昭和九年八月廿四日)	二性教育	吉慶	委員會
日本出席	日本出席	大會	大會	一〇一(昭和九年八月廿四日)	三性教育	吉慶	一〇二(昭和九年八月廿四日)	二性教育	吉慶	大策三會

醫史學博士一覽

氏名 指授與年月日 通  
主 要 論 文 現 職

第四 女性會の部

69 同上  
70 同校卒業生アルバノ  
71 大阪高等女醫專現況  
72 同校沿革其他

元見たる全景 大額  
ム、同校沿革、研究業績其他

84

日本女醫會關西支部の福井繁子女史學位獲得祝賀會（昭和六年六月）

貢 戸田邦子

第五 文醫と國際社會

女醫と國際社會

第五 女醫と國際社會

史記卷一百一十一

卷之三

89 第一回汎太平洋婦人會議と日本女醫會代表吉

吉岡彌生女史

92 日本女醫會の最近の行事 いろ／＼

卷之三

93 過去五十年間の日本女醫歟の變化

七

8月本支医會奉香傳會第岩佐傳會日以當世醫務榮所長就任  
西林東氏學位獲得祝賀、井出ひろ子、竹澤さだめ氏歸朝歡迎會（昭和六年四月）

展覽倉開催について

- 97 世界女醫數  
98 萬國女醫會一覽  
99 古參女醫一覽(草稿)  
100 日本女醫會雜誌合本

## 五十周年祝賀會後記

多川 澄

×

△祝賀會當日「頌德表」を捧呈した石黒忠恵子爵閣下が御病臥中の爲め御臨席願へなかつたことは返すくも遺憾であつたが、加ふるに生憎御令嗣石黒忠篤氏も御旅行中にて之れ又御出席叶はず、非常に殘念なる旨、前日石黒邸より御電話にて御断りがあつた。

それで祝賀會終了後直ちに、午後十時吉岡會長、評議員竹内茂代、三輪田繁子、二女史及大阪より會の爲め出京せられし評議員菅澤鶴子女史等牛込なる石黒子爵邸に赴かれ、頌德表を贈呈すると共に、展覽會に借用の子爵筆軸物、子爵御寫真等を御返却に及んだ處、子爵には非常に喜ばれ御取次を以て厚く御禮を述べられ、「會員皆様に宜しく」との御言葉であつたさうである。

尙ほ、吉岡會長から「其内御機嫌よき折に祝賀會當日の狀況を御報告申上げたい」と申し入れられたところ、「何れ

### 戯曲「荻野吟子」を讀みて

荒川重平氏未亡人と柄内大將未亡人より

御機嫌よく渡らせられ御悅申上ます。さて日本女醫會雑誌第七十二號御惠贈頂き一昨午後拜受致しました。心簡明的確なる御健筆にて故人の性格其他詳細相分り心から感謝致し家寶として大切に保存致します。御禮まであら／＼かしこ

五月十七日

千葉縣船形町

多川澄子様

×

△祝賀會が終つて間もなく、牛込の書房共盟閣の主人神田會長 吉岡彌生様 御許

×

秋元光子代

日本女醫會

×

△祝賀會が終つて間もなく、牛込の書房共盟閣の主人神田氏より來狀あり、荻野女史の傳記出版に就て話したいとのこと、數日後來訪されて、女史傳記出版の希望を述べられたが、すでに、荻野女史小傳は本會で出版し、又近き将来女史五十年史編纂の意途もあるので、圓曲に御断りしたのであつた。數奇を極めた荻野女史の経歴は、出版業者の間にも若干の興味を率いたものと見える。

△拙筆戯曲「荻野吟子」の戯中の人物にて現存せらるゝ夫人より次の如き來狀があつた。

多川澄子様

芝區三田綱町

柄内繁子

五月二十日

氣分のよろしき時當方より御通知いたすから、そのせつはよろしく御願ひする」との事であつた。

どうか御宿症の一日も速かに快方に向はれんことを祈つて止まない。

尙ほ又、石黒子爵より本會に對し、子爵の九十年の回顧錄「石黒忠恵古九十年」と題する著書の御寄贈があつた。

此書物は、實に維新前後尊き勤王史であり、又得がたき醫學史であり、將又古今を通じての大修養書である。追て御紹介して見たいと思ふ。

×

△故荻野吟子女史の御遺族として、女史の令姪に當らるゝ秋元光子子刀自を御招待した處、七十歳の御高齡で、令息秋元直氏に附添はれ來會された。

そして祝賀會の始めから終りまで臨席せられて、感慨深げに會の模様を見て居られた。

翌日令息代筆を以て次の様な丁寧な禮狀を寄越された。

拜啓 愈々御多祥の段奉賀候 陳者今年は我邦に於ける女醫誕生五十周年に當り盛大なる御祝典を擧げられ斯界の爲め大慶の至りに奉存候就ては當日御寵招を蒙り席末に列するを得たるは光榮の至りにして厚く御禮申上候

×

御機嫌よく渡らせられ御悅申上ます。さて日本女醫會雑誌同慶申上候。此度五十四年前よりの懐古感慨御盛會の御前様の戯曲思はす涙を催しながら拜讀致し候。御禮まで草々。ひ私も無事に過し居り候間御安心願上候。發奮を祈上女に幸醫ての御健康を祈り、ますく御發奮を祈上女に幸醫ての御禮まで草々。

五月二十一日

荒川八重

×

状況を知らせるべく一同が二十幾枚の繪葉書へサインをしました。庭に面した氣持のよい室にコの字なりに席について、御馳走を戴きながら大に舊交を温めました。東京在住の人々さへお互に職業があり、家庭があり、子供があり、中々相會する機なく五年十年も顔を合せぬ人さへあります、まして地方から御上京になつた方々の中には二十年振り二十五年振りなどと仰せられる方々もあり、全くなつかしさうれしさの極でした。舊恩師の方々へも御案内状を差しましたけれど、時節柄會等も多く御先約のあつた爲めか僅かに佐々木秀一先生及び木村鉢太郎先生のお二方が御出席下さつたのみでした、でも兩先生共まことに御満足げに見受けられました、色々御感想も伺ひました、教へを受けし頃より二十幾年も経つて居るとも思へぬほどのお若さ、お元氣でした。でも二十有餘年の歲月は我々友人の生活に幾多の變化を來たして居り



五月十日第一明治會記念撮影

ます、お互に自己紹介によつて現状を知り合ひました、病院を經營して居る人、地方で學校醫となり兒童の保健衛生に貢獻して居る人、又結婚して一方職業を持ちながら妻となり、母となつて大抵三人五人の子女を有する人、等々中にも島倉さんはお嬢さんが嫁入せられ孫が生れて居りますと仰つたし、中川さん城さんは御愛嬌が現在母校女子醫專へ在校中だと承りました、北江さんは五人の御子さんをおいて上京したとの事でした。

職業婦人は子女を教育するのに層一層の苦心があるだろうと誰でも申されます、でも子供の母となつた方に承つて見るに、母親が醫者なるが故に子女の教育に支障を來たしたと云ふ方ではなく、皆子女達も丈夫であり、學校等の成績も良好な方ばかりでした、又職業があるが爲めに家庭を破壊した

人もないやうでした、してみると職業婦人と結婚などと云ふ問題は、現今に於ては解消された問題ではないでせうか話が横道へ外れました。關西から御上京の方々は皆今夜十時東京發の汽車で御歸國になるので、急いで記念の撮影をなし、一同揃つて東京驛へ送りました、十時昔歌つた鐵道唱歌のそれの如く、汽笛一聲と共にこのなつかしい友を乗せて、汽車は西へ〜と離れました、我々は見果てぬ夢を追つて家路へ向ひました。

## 出席者名(順序不同)

吉岡 瞬生先生	繁田 政枝	木俣 はま
佐々木秀一先生	北江 小菊	尾形 千賀
木村鉢太郎先生	竹内 茂代	吉岡 房
吉岡 博人博士	菅志津勢	田口 多
中川 だい	三輪田繁子	佐藤 静
菅澤 鶴姪	田 満	下山 松枝
新保 小春	島倉 まち	福田 幸
城 薫	藤田 静子	



## 濟生學舎が女子に門戸を閉鎖せし當時

(女子醫學研修所から東京醫學校まで)

田口あき子氏談

當時唯一の男女共學の醫學校濟生學舎が、明治三十三年女子の新入學を禁じ、翌三十四年四月頃突如として在學中の女醫學生をも拒絶したことは、何としても晴天の霹靂でした。

その頃在學してゐた女性は、我れ〜前期生が三十名、後期生が十四五名、何れもとりあへず秋の試験(醫術開業試験)を受ける爲めに何とか方法を講じねばならぬ、焦眉の急に迫られてゐたのでした。

前期生は前期生、後期生は後期生とそれ〜委員を作つて、從來の講師方に泣きついて講義を聽かれる様に奔走する事になりました。(後期の方は大政稻野氏外二名の委員が奔走されて、本郷の中央會堂で講習を受けることとなりました。その第一回のメンバーは左の通り

○窪澤きやう子 越智(小山)とし子 安部(三鷹)すみ子  
十狭間ぬい子 菊池菜子 十三上鶴子 中村愛子 笠  
尾玄尾 ○小林よね子 十玉川  
(木村)よの子 十日下咲子 河村  
悦子 高橋末子 ○松崎房子 大  
政稻野 (以上十五名、○印は中途  
廢學、十印は死亡)

其時の講師は

高田毗安先生 粟本秀二郎先生

中島襄吉先生 竹崎季薰先生 中

泉先生 荒川清俊先生 村山知二

郎先生 辻高俊先生 西村美龜次

郎先生 難波要先生 大藤正三郎

先生 佐々倉先生 以上

一年後に大政稻野氏始め數名は試  
験に合格して醫師となられ、残りの  
人々と新らしい人々十五名で又一年  
繼續せられ、講師方も三分の二位は  
新陳代謝されたといふ。

以上は大政稻野氏よりの御話で、  
茲に附記する次第である。)



生學び及師講の所修研學醫子女

前期生も無記名投票で三名の委員が選出され、田口あき  
子、茂在つい子外一名であつたがこの一人は途中で委員も  
止め、醫師になることを断念した。

叔て我ら委員は、石川清忠、  
飯盛挺三、曲淵景章の三先  
生に御願ひする爲めに、毎  
日朝五時半頃一しょに頼み  
に出かけました。

私(田口)と茂在の二人が  
餘り熱心に頼るので、それ  
では三十人位人數も揃ひ、  
場所を選定すればしてもよ  
いといふ事になつた。この  
時我々は率直に、何分資力  
が無いのだから、同志のも  
のが各自月謝を出し、それ  
で萬事をやつて行くことに  
したいから、先生への月給  
もさし上げられないことを  
斷つて諒解を得、場所の選

定にかゝつた。

その當時神田神保町に神保院といふ人  
の醫院があつた。この人の兄君は福島縣選出の代議士で、  
議會でハアゲマン(禿頭の故を以つて)で通つてゐた鈴木萬  
二郎といふ方であつた。茂在ついは此の神保院の婦長をし  
てゐた。そんな關係から、それに此の鈴木氏兄弟は大變親  
切な方であつた處から、我々の苦境に同情していろいろ盡  
力して下さつた。鈴木萬二郎氏は、歯科醫學校の血脇守之  
助氏と懇意であつたので、水道橋畔の血脇氏の學校の一部  
を、齒科學生は午後使用するので、午前中丈け我々が借用  
することとなり、その家賃は月八圓であつた。

聽講生も濟生學舎から十五人、女醫學校から十四人、  
三十人程同志が集つたので、愈々三十四年五月頃開校し  
た。そして名を女子醫學研修所と命名し、これが明治三十  
七年頃迄繼續した。

そのころこゝに學んだ人々には、

飯田 知い	早坂 千賀	吉見 孝	高須 いま
菊池 荣	三谷 茂	白石 すて	田中 孝
高橋 小丈	岡田 つる	隅田 的場	莊
桑原りうほう	桑原(林)梅枝	新武 たみ	豊田 ゑぢ
仁保 澄江	田口 あき	水江 しづ	

吾れくもこうしてどうにか形ばかりでも學校らしいも  
のが出来、毎日講義を聞いて受験準備が出来るやうになつ  
た上は、自分等の爲めばかりでなく、後進者の爲めにもそ  
の備へをして置いて上げ度いといふ氣持も出て、乏しい中  
から積立金もしたりしてゐたのであつた。

此の時分のこと、東京女醫學校の吉岡彌生女史が神保院

に見えられて女醫學校と合併せぬかとの御相談があつた。これに對し我々としては御返事を申上ることも出來ぬので田口茂在二人で石川先生に相談に行つた。その條件は、校長は吉岡先生で、講師に研修所の諸先生をたのむといふことで、先生方相談の上斷るといふことになつた。先生方として見れば前に濟生學舎で教へた人の下に働くといふ事に不服であつたのではないかとも思はれる。一方明治卅五年には、長谷川校長感ずる所あらわれて濟生學舎を全く廢校としてしまはれたので、今度は男學生が、以前の我々と同じ運命に泣く身となつた。その時男生の幹事が數名私の許へ相談に來た。自分は女子醫學研修所成立の模様を委しく話すもと同窓生のこともあり、困る時は相身互だから、何か御手助けして上げてもよいと云ひ、男生も吾れの運動方法を真似て、先生に頼み場所が出来ればよいといふことに漕ぎつけ、我々に場所の交渉を依頼されたので、私と茂在と二人で男生の爲めに、當時三崎町にあつた大成學館に講堂を貸して貰ふことを交渉した。大成學館の所有者が「女の身で男生の事を頼みに來るとは、どうも譲が分らぬ」と不審があるので、その理由を話した所、初めてよく諒解して承諾してくれたのであつた。男生達は非常に感謝して我々もよいことをしたと思つた。それから後は男生が着々準

備を進め、こゝで講義を始め五十名以上の生徒があつた。これが一年ばかり續き、後本郷千駄木町に女學校の敷地か何かを手に入れ、茲に引き移り、東京醫學校と命名し學校數も少なく、經營が中々困難なので、東京醫學校が出來たと聞いて、私はこの學校へ女子も入れて呉れる様に交渉しました。然るに男子の曰く、將來專門學校にするつもりだから女子を入れるわけに行かぬといふ。そこで私は前からの行いさつを話し、それでは約束が違ふと談じ込んだ。理屈には勝てないので、承諾してくれることになつた。いはゞおしあげ嫁入りですね。そこで化學や物理の器械、かるた、羽子板（これは滑稽なやうですが、勉學の餘暇のうそ晴らしにと私が寄附したもの）それに現金八十四圓を荷車に積んで、研修所の生徒全部東京醫學校へ入學したといふわけなのです。これは明治三十七年のことで、私はこの春前期をとりました。

それから間もなく病氣になり、又、日露戰爭が初まり、九州に赴きました。明治三十九年まで、一時醫學修業も思ひ止まらねばならなくなりました。

明治三十九年春、再び上京して東京醫學校に入學したこ



## 女子醫學研修所時代 の思出

的場 莊子

私が醫學を志して東京へ行たのは明治三十四年十一月三日で初めて帝都の土を踏だのである。其時自分の目指す學校は女子醫學研修所と申て石川清忠先生が主事で田口あき子氏が事務を取て居られた。神田の三崎町に血脇氏の齒科醫學校があり、其教室の一部を借りて講義をして居られ、其所へは入つたのである。黒板壁の中の玄關に下駄をぬぎ並べて上ると其先きが教室である。何疊敷だか床、達棚

ろは、講師には外科に中原、山村、内科に鳥山、柏村、病理に茂木、眼科山口、藥物高橋、產科中島、其他大瀬などいふ鉢々たる先生方ばかりでした。

東京醫學校は明治四十三年迄續き、一方に明治三十七年神田淡路町に日本醫學校が開業され、共に多數の學生の中に女醫學生が交つて勉強して居りましたが、四十三年この兩校が合併して、本鄉千駄木の東京醫學校の校舎に移り日本醫學校となり、これが後に日本醫專となり日本醫科大學となつたのでした。

の有る純日本間の疊を上げて板敷とし、一間位の名ばかりの机と腰掛が三列か四列縱隊に並べてあり、生徒は三十人餘りもおりましたろうか先生は石川先生が解剖、生理組織學を、化學は曲淵先生生物理は飯盛先生其他は思出せない、或日解剖學の授業中ガタ／＼大きな地震がゆり出、皆懸立ちに成り兩端の方の人は大分飛出して、先生が君達は何處迄逃たら地震はゆれないと思ふと大叱られ、私は其横列の中央に居たから逃るに逃られないで蒼く成つて居る間に止んだが、其爲に自分は叱られなかつた様な氣がしてほつとした。ほんとの講義ばかりで實驗なんていふことも無く、曲淵先生が腕と腕とが食つ付いてなんか云はれたつて何の事だかさつぱり分らず終には睡く成るばかりであつた。解剖は石川先生が流石は繪をうまく書いて説明して下さつたので分りよかつた。或時神田の神保院と云ふ病院で、外傷で切斷した足を一本貰つて先生の指導は無く、田口さんが先達と云ふ風で筋肉解剖を見せて貰つた事がある。斯う云ふ有様で只字を読み、畫を見て頭に詰込まんとする一方で

先空に且簡置は障寒にが看て有りが  
其懸春頃て井入の神樂坂上迄一寸之

寄宿舎が出来て、自分も夫れには入つた。今の水江志津子様(横濱)、林ウメエ様(徳島)、伊藤照子様(名古屋)、桑原リウボフ様、二宮澄江様其他に二三人有りました。水江さんは桑原さんはハイカラで、夏は改良服と申して筒袖の先きの絞つたのに袴と云ふ装ひで帽子を被つて都大路をカツ歩して居られた者です。牛込から神田三崎町迄、大分遠い路を、毎日テク／＼通學しました。暑くなり蚊が出る様に成つて、私の蚊帳は、六疊づりだつたから夫れを八疊の間に吊し、五六人も頭丈周圍から入れる様に床を敷き腰から先の方はふとんで包んで寝た事も有つた。此の寄宿舎も入舍生が少なく、経費の都合で其夏限り閉鎖され、皆が散り散りに成つてしまつた。自分は病氣の爲に歸省して居る間に何時か研修所も東京醫學校と成つて、本郷の駒込に病院付きの立派な學校と成りました。

## 關西に於ける女醫の學校

大阪慈惠醫大  
關西醫學院



明治三十二年 大阪慈恵醫院醫學校女生徒  
節子 村上 琴子 恒喜 越智 富代  
此の學校は五年生

久恒 静枝 萩谷 玉枝  
油川たか子 守山 みち  
橘 薫 石橋國子(中止)  
上羽 しま 富山 靖子  
等の人等で、學校の隆盛時代(明治三十四年頃)には男生は二百人位、女性は四十五人近く在學してゐたさうである。

その頃此學校出身で醫術開業後期試験に合格せられた人としては、明治三十三年六月同 三十四年秋 同 三十五年六月 同 三十五年十一月

## 關西に於ける女醫の學校

關西などに大阪に於て古い時代即ち明治のころ女醫を志した人はどういふ處で學んだか。

月台の切符、月台券、月台に荷物を預けたうえで月台を見下すの通りである。

明治の初期即ち明治十八年初めで荻野女史が女医となられた。(荻野女史は下谷練塀町好壽院に學ばれた)同じ年に高橋瑞子氏が済世學舎入學に先鞭をつけられてから、女医たらんと志す者は大方此濟生學舎の門を潜つてゐる。明治三十年頃迄に女医になつた人は皆さうで、大阪の福井繁子女史もその一人であつた。

明治廿七八年頃、大阪東區粉川町に、大阪慈惠醫院醫學校が創立され、校長には緒方正清氏、講師としては、高安道成、松本需一郎、鬼束益三、岩崎寛治、田中祐吉、下方正則、白金某等の先生方が居られた。

此學校に幣原節子氏が入學されたのが明治三十一年五月  
村上琴子氏が明治三十一年十月であつた。

當時多數の男生の中に交つた女醫學生としては、

部轉校した。

關西醫學院は明治三十五年創立、所在は大阪市北區出入橋際で、校長は佐多愛彦氏、講師としては有馬政〇氏（大阪府立高等醫學校の教授）にて今の有馬博士の父君）櫻根孝之進氏、田中祐吉氏其他であった。

油川 たか 守山 みち 中山 玉子 山中 貞  
北村 静 杉田 鶴子 坪村 政枝 新 武 民

等が居られた。然し明治四十一年廢校となつたので、在學生は、男生は大方日本醫學校に入り、女生は東京女醫學校或は日本醫學校等に轉校したのであつた。

山あるのである。  
山あるのである。  
以上が大阪の女醫の學んだ明治時代の醫學校に關するあらましである。

### 會員の動き

本會評議員大貫節子氏は今回御夫君と共に、世田谷松原町の京王病院を經營せらるゝ事となつた。同院は都廳をさけ、富士山の眺望もまことに宜しき由、尙御住所は當分從前通りに居られます。

× × ×

### 感謝狀

右女醫公許五十周年記念祝典祝ヒトシテ御寄附被下有難ク感謝申上候  
謝申上候

昭和拾壹年六月

日本女醫會

東京府産婆會御中

× × ×

### 一、花輪壹箇

右女醫公許五十周年記念祝典ニ御寄附賜ハリ有難ク感謝申上候

昭和拾壹年六月

東京婦人日日新聞社御中

日本女醫會



## 故本多銓子女史の思ひ出

竹内 茂代

故本多銓子女史は、私が醫業に携はつてをります限り、忘ることの出来ない先輩の一人であります。今回「女醫公許五十周年」に當り、私が女史の経歴を提出することを分擔致しましたので、此處に其の思ひ出を少し記しませう。

私が女史に初めて逢ひましたのは、明治三十六年で、其の時は既に林學博士本多靜六氏夫人として駒場の官舎に住まい、醫者をやめられてから拾年も経過して居りました。そもそも女史が醫學を志したのは、済生學舎でも未だ女子の入學を許さぬ頃で、慈惠病院で、高木兼寛先生に師事し、唯一人男の中に混つて勉學し、男に劣らぬ成績を挙げた人ですから、常に朝氣溌々としてゐて、醫者になつた當時の事ですが、或る雑誌が「女醫亡國論」といふ論說を掲載したのに對して、女史は火の燃えるやうな反駁文を書いた

て當時の女醫の意氣を示したことがありました。このやうに氣概のある人ですから、家庭だけに引込んで、全然醫業をやめてしまつたと云ふことが如何にも、諦められない程殘念であつたのでせう。私の顔を見る度に其の心事を訴へられました。

『折りがあつたら、もう一度醫者を始め度いが、この状態では再び立つことは望めないと思ふ。まことに残念だから貴女は、私と二人分やつて下さい。一人分働けるやうに神様に祈つてゐる』と仰言るのでした。

私がどうして女史を訪問したかと云ひますと、女史の父君本多晋——明治維新の頃、徳川幕府の旗本——といふ方と私の父とが懇意でありました關係から、上京して女醫學校へ入りますと、早速お目にかかりに行つたのです。が、前にも述べましたやうに、昔の意氣盛んな女史の面影は何處にも見られず、よりよき主婦として、慈母としての銓子女史であります。しかし、ものやさしくて、涙もろい半面には、何かに感激すると、涙を流して祈るといふ情熱も残されてゐて、醫學生時代の苦學談を屢々聞かせて下さいました。

學を勉強するにも、標本等は男の生徒が専用してゐてなかなか見られないで、夜提灯をつけて、高輪泉岳寺の墓地に行き、あちらで頭蓋骨を一つ、こちらで大腿骨を一つと拾ひ集めて勉強せられたのでした。しかし、女史の口から『學問が困難である』といふ言葉は一度も聞いたことがありませんでした。

開業してからも女史は

非常に流行され、御結婚後は、駒場の宅から、人里離れた淋しい道を人力車で、赤坂の診療所まで毎日通つてをられましたが、やがて、お子さんの教育などの爲め、閉鎖してしまひました『醫者は

それに精神を打込んで専門にせねば、出來ぬことである。家庭に這入り込んだ傍らでは駄目だ。其の證據にはあれ程流行つてゐた私も、駒場から通ふやうになつてから、追々

よい程の時がありました。本多家に集る多くの人達は女史を信頼すること厚く、奥さんの言葉なら皆無條件で聞きました。女史も亦其の人々が病氣で困る時などには小遣ひを與へ、轉地の必要の人には、特に自分が使ふやうに夫君から貰つた金を恵んだりしました。従つて私の處へ患者を紹介なさる場合も、境遇のよい人からは普通の治療費を受け、困る人には加減するやうにと注意がありました。

大正二年私が獨立して、開業しました時には、澤山のお祝ひ金を下さつたり、私の新しい家庭を訪づれては、あれが無い、これが無い、と云つて數々の品物を買つて下さつたりしました。以前にも増して患者を紹介して下さることは勿論で、尙先きに女醫學校へ紹介なさつた本多家關係の患者も大方私に附いて参りましたので、私は開業早々から盛ることが出来ました。かつて『自分と二人分働け』と仰言つた言葉を最後まで實行して下さつたのです。

×

此のやうに女史は常に身邊の者を勞はりましたが、御自身の爲めに盡すことは、極めて薄く、着物などろくに作つたことがなくあれば皆人にやつてしまふので、筆筒は幾つもあるが、中は空といふ状態で、亡くなられる時も、脳溢



故多本銓女子の史面影

患者が減つて來た』と語りました。そして、醫者は何處までも『對人信用』が大切で、決して立派な家や構へに依るのではないとも云はれました。

×

私が醫者になりました頃から、胃臟病を發し、亡くなられるまで十四、五年間、私は本多家の家庭醫として、女史の御病氣やお子さん方を診てをりましたが、一方女史は、交際の廣い御

家庭に集る限りの患者を私に紹介して下さいました。これ

は私の開業前、女醫學校の醫局にをります頃からのことで、同校附屬病院の外來患者の半分は本多家の紹介と云つても

血で倒れて以來づゝと失神状態でゐられたゝめ、度々着物を取換へゝしてゐますと、しまひには着替へに、差支へる程でした。資産は數百萬もあつたでせうが……。

女史がかく急に逝かれた原因の一つは、折節七十九歳の父君が胃癌で、死が旦夕に迫り——母君は二、三年前に逝去——私も専門家も診てゐましたが、最早一週間も持つまいとの診斷を聞いて、想像も及ばぬ程、身も世もあらず悲數されたことに依るのでです。

お倒れになつてから臨終まで五日間、私は全く附き切りで看護しました。

×

女史は英語に堪能で、五十六歳で亡くなれるまで、第四中學校四年の御子息の英語を教へてゐられた程でした。又、女史は敬虔なクリスチヤンで、これは實に伯母出口たか子さんの導きに依るもので、出口さんの家は今も信濃町にあります。が貧民傳道をしたり、よい働きを澤山した人です。當時は未だ婦人の社會的地位は低く、社會事業方面に働きかける人は殆どありませんでしたが、女史の一生は、周囲の人々に一つの社會事業を施してゐたと云つてよいです。本多家で働きつゝこの奥さんに慈くしまれ、育てられ人達が今はそれゝ出世して、博士十名以上、一家を成

してゐる人々も多數を算へられます。

女史はこのやうに徳の高い、隠れた人であります。

(文書記者) — 次に御子息本多鉢氏の思出を載せます —

## 女醫本多鉢子の思出

辯護士 本 多 博

私の亡き慈母本多鉢子は我國に於ける第三人の女醫である所から女醫祭を行ふに際し、その傳記を書けとの命に隨ひ覺束ない記憶を辿りて其概要を記します。

母は慶應の前年僅か一年しか無かつた元治元年本多晋の一人娘として江戸に生れ、其母は江川太郎左衛門の江戸詰家老雨宮仲平の長女梅子であつた、父の晋は明治維新の際彰義隊頭取として國事に奔走、家に在ることが極めて稀であつた爲め、主として母梅子の手で養育せられた。十一歳の頃ミス、ツルースと云ふ英人の家庭に預けられ英語を学び、十五歳の頃には早くも英語に通達し全權公使川瀬眞孝子爵夫人（江川太郎左衛門の息女）等の爲めに屢々外來客の通牒を爲せし由である。又書を當時有名なる書家得所山人の門に學びて上達した。後竹橋女學校に入り成績抜群にして昭憲皇太后御臨校の際等には英文讀書と日本字の御前揮毫を務め其度毎に賜りたる辭書其の他の御下賜品は今尙我家の家寶と

して保存してあります。

其頃女醫養成の議起りて女醫問題頻りに世に論議せられた爲め時の海軍軍醫監高木兼寛博士は、果して日本の女子に新進の學問たる醫學を修得し得る能力あるや否やを試験する意味で、當時女子教育では最高と稱せられた竹橋女學校の學生中より二人の才媛を選抜して、それを海軍各醫學校に入れ、全く男生と同様に勉強せしめた。其二人の内一人は母鉢子であり他は松浦……女史であつた。松浦女史は中途病氣の爲めに退學したが後に慈惠病院の看護婦長として長く勤務せられた由である。

母鉢子は遂に只一人限りの女醫學生となり、多數の軍醫候補生の間に伍して勉強したが、それが如何に困難であり、如何に不便であつたかは老後屢々語られた所である。その堅忍不拔の努力に對しては只に頭が下る許りであります。

こゝに只鉢子の伯母であつた出口たか子は當時クリスト教の傳導師であり男勝りの女丈夫で、常に本多家に出入りし、鉢子を熱愛してその指導と監督に努められた事は鉢子の修學上に與りて大功があつたと云はれます。

兎に角長い苦學の後明治二十一年二十五歳にて醫術開業試験後期試験に及第し我國に於ける第三番目の女醫となつたのである、其翌年婚養子として林學士靜六を迎へ家庭生活に入つたが母は其年より芝區芝園橋外の自宅に醫業を開業し、翌二十三年靜六が獨逸留學後は一層業に勵み傍ら慈惠病院に產婦人科の診療を手傳ひ或は横濱フェリス女學校に衛生學を講じ、或は慈惠病院の看護婦

評議員並びに小山とし子氏等があつた。

女醫ドクトル、メヂチーネ中村唯子女史は明治六年五月熊本縣天草に生れ、夙に才授の譽れ高く同二十三年熊本縣藥學校に入び藥劑師となり更に進んで女醫たらんと志し東京濟生學舎に入學し三十一年四月醫師の資格を得らる、女史かねて先進國たる獨逸に留學の素志あり好機熟し翌三十二年單身渡獨マルブルヒ大學に學び在獨七年ドクトルメヂチーネの學位を受く、之れ吾國女醫にして獨逸ドクトルの嚆矢なり、明治三十九年歸朝後同地に開業すること二十三年昭和六年歸朝頃現地に悠々自適開業せられ尙ほ今後割収せらるゝ所あらんとせしに不幸病魔の犯す所となり遂に六月十八日逝去せらる悲しい哉女史は實に吾が女醫界一方の開拓者にして篤學卓見世に傑出せる大先輩として敬慕能はざりしに今や幽明境を異にす眞に痛惜に不堪女史惜むらくは嫡子なく些か寂寥の感あるもその女醫界に遺されし功績は不朽のものとして長く女醫史上に輝き後進を裨益する所大なりと信ず、又以て瞑せらるべきなり茲に謹んで弔詞とな

り、次の如き弔詞を送つた。

## 日本最初の獨逸ドクトル 中村唯子女史の計

日本最初のドクトル、メヂチーネにして、永らく天津に開業せられた中村唯子女史は、御歸朝後肝臓癌を發せられ、去る六月十八日遂に六十四歳を以て逝去せられた。

日本女醫會では、最古參である、同女史に對して、花環を送り、次の如き弔詞を送つた。

女醫本多鉢子の思出

昭和十一年六月二十日

日本女醫會  
(多川澄代讀)

一一五



### 幣原節子女史設立の

## 祥樹保育園

多川白水女

今春大阪に日本女醫會關西支部の大會が開催された節杉田鶴子氏と之れに出席したが、その開會迄の僅かの時間を利用して、兵庫縣御影町の幣原節子女史が、最近數萬圓の巨資と心血を注いで御設立になつたといふ主として人工栄養をなす乳兒の爲めの保育園が、つい此程竣工したとの事なので、拜見に上がることとした。

阪急沿線の御影驛に下りると、いつも乍ら空氣のよい、櫻の美しい所だと思ふ。先づ最初に女史の御宅へ伺ふ。保育園はまだ竣工したばかりで、開園はして居られぬがすでにのつ引きならないのが頼まれて、一人だけ女史の御宅に引き取つて居られるが、不日あちらへ移される筈で、すでに數名の申込があつて開園を待つてゐるといふ。女史少憩の後各室を残る限なく見せて頂く。

保育室は、一階二階共數室あり、一室に三臺づゝ、寢臺が置かれ二十五人は入れられるといふ。

、寢臺はエナメル塗で、桃色とクリ

ームと二色あり、何れも外側の柱を高くして起立しても危くない様にしてあり、天井や壁は防音裝置が施され、夏涼しく冬暖かく、加ふるに眩しくないといふ特點があるといふ。

天井から綺麗な花房が下つて風にゆら／＼してゐたり、室内に繪畫の額や、花瓶など置かれて、乳幼兒の情操の教育にまで注意してある。

園兒の調度（櫛櫛、レセフト、検温器、洗眼洗面器、等入れるタンスや、美しいエナメルの色塗りのオモチヤ簞笥や、置時計、レコード入れ迄も備付けてある。

一室の壁面を見ると、次の様な保育者に對する注意が記

る二階建の美しい別荘風の洋館である。建物は木造耐震耐火性で、坪は延百五十坪あり、敷地は三百七十坪とか。後ろに六甲連峯を負ひ、前方は開けて遠く茅渟の海を望み、各室とも一ぱいに春日が室内にさし込んで其明るく暖かい。前方に廣い庭があり芝生となつてゐる祥樹保育園と記された門を這入つて右寄の玄關に履物をぬぎ、更に左手の應接室の椅子に落着く。

幣原女史は、多年開業されて患者の信用も篤く、相當の産を積ませたが、唯惜しむらくは御健康の點が十分で無かつたため、獨身で通されたので、何か社會事業の爲めに資力を注ぎたいとの平素の御考へが實を結んで、今日母乳に恵まれない可憐な乳幼兒の哺育に餘生を捧げる可く振ひ立てたのであつた。「祥樹保育園」なる名稱の祥樹のいはれは、女史は楠氏の出た河内國門真村の御生れなので樟樹から轉じて祥樹なる名を得られた由である。此保育園の特色は、中產階級の乳兒の理想的的人工栄養を行はれる點であつて、女史の言はるゝには「すつと下のカード階級には割合社会施設も行届いて居りますし、又私共の資力ではこれは到底不可能事です。寧ろそれよりは施設も手薄であるし、社會の爲めにも大切である中產階級の爲めに骨折つた方が有意義ではないかと心得ましたので、云々」

されてある。この保育の任に當る人は、高等女學校卒業生の、これから母となるべき若い娘さん達で、幣原女史指導の下に茲でお母さん教育をして貰ふわけである。

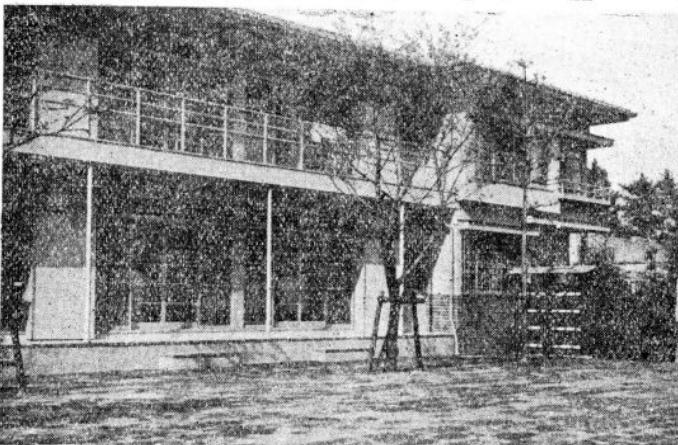
### 保育者心得

第一、優しくして常に温情溢るゝが如き微笑を以て小兒に對せよ。

第二、幼兒の如何なる無理も決して怒るべからず、喜怒哀樂による保育者の顔貌表情の變化は幼兒の精神上に及ぼす影響最も大なるを思へ。

第三、口やかましく小兒をあやし機嫌取りすべからず、殊に小兒の耳元にて騒々しき音響を立てざる事、乳幼兒の未だ發育せざる精神神經を刺戟し將來神經衰弱を起し

易き體質とならしむる恐れるを考へよ。



祥樹保育園の一部

抵抗力なく如何なる細菌にも直ちに感染し易ければなり

第五、保育者自らの清潔を守れ、口は屢々清水を以て含嗽し手は石鹼を以て常に洗ふべし、又

如何に小兒を愛すればとて決して接吻すべからず。

第六、子守唄は在來のもの或は靜かなる曲の唱歌、軍歌等を唱ふもし、決して騒々しき歌、悲しき歌下品なる歌を唱ふべからず、節面白く平和にして靜かなる歌は幼児の耳に一種の溫和なる催眠作用として働くものにして此優しき聲は懷かしき思ひ出として終生忘れ難く延いては人格完成の素因ともなる事を知れ。

第七、小兒の取扱いは靜かに落ち付きを以て爲すべし、手荒く亂暴なる動作はたゞへ幼児と雖も精神上に影響し怒り易き性質を附與するものなり。

第八、哺乳栄養に關する取扱いに就

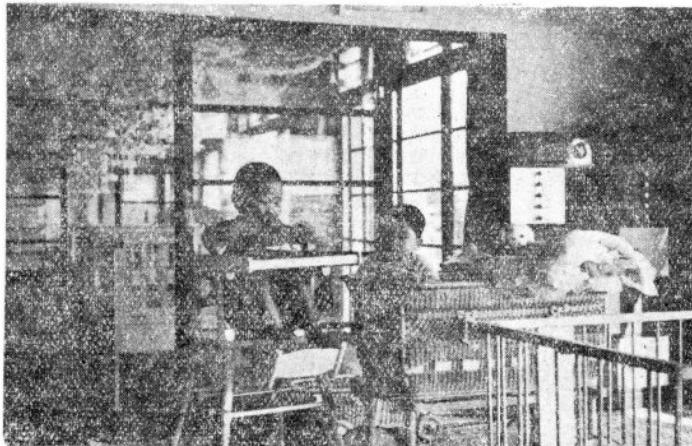
完備した電氣装置や、降雨の時には煉炭一つで九十六枚のおしめが乾かせるといふ裝置や、汚物を焼く上で消毒物が煮られるといふ裝置や、いろいろ見せて頂いたが委しい事は略す。唯以上見學して感じたことは、いかに財力を惜しまず造られても、これだけの行き届いた設備は到底出来るものではない。矢張り多年小兒科醫ことに女醫としての尊い経験と女史の明晰な頭腦の力によらなければ、これだけの理想的な保育所は得られないであらうと。

最後に此祥樹保育園の園則とも云ふべきものを御紹介する。

即ちこの保育園に預かる乳幼児の條件としては、

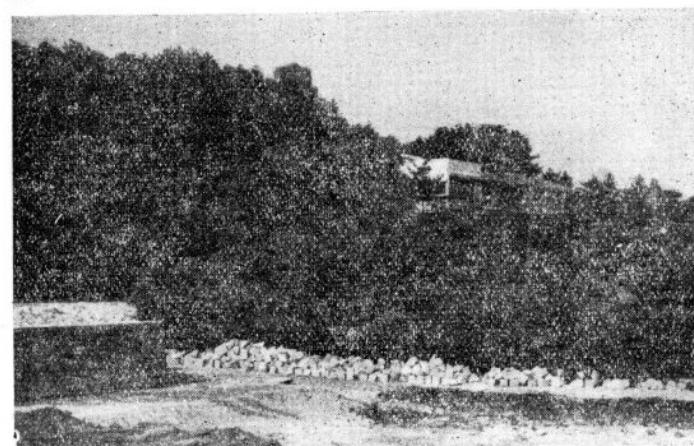
一、母親が重病のため、絶対に授乳出来難く、適切な保育者のない時

一、年長兒が麻疹又は百日咳其他の傳染病に罹つて健康幼



保育室

x x x x



祥樹保育園の遠望

第九、規則正しく時間を尊重せよ、されど小兒をお守りする事は決して時間の空費に非ず、此時間こそ最も有意義にして將來國家有爲の人物たると否との素因は實に此時期の保育如何にあるを思へ。

第十、責任の重大なるを自覺し常に自己修養に努め全員一致協力して社會の爲めに盡瘁せん事を希望す  
（財團）祥樹保育園  
法人 祥樹保育園

これだけの細心の注意と温情とで、しかもこの風光明媚な健康地に保育される赤ちゃんは何とまあ幸せなことであると思ふ。

その外電氣冷蔵庫、瓦斯水道の完備した厨房兼牛乳室や便所を廣く造つておまるを置き、稍大きい子には茲で便器にさせる様にしてあることや、別棟で最大切なおしめの洗濯の

児の隔離を必要とする時。

一、兩親共に外出する職業を持ち家庭に保育者のない時。

一、乳幼児を残して旅行する必要のある時。

一、突發した事情の爲、急に乳幼児を一時的に預けたい時。

一、止むを得ない事情で、暫間のみ預けたい時。

一、其他以上に類似の事情の場合、なほ入園兒は生後三歳以下を原則とし、病兒ではいけません。入園料は一日一圓、家庭の事情では輕減又は無料で預る事になつてゐます。

# 日本女醫會雑誌

第十七四號

- 學術  
新生兒ノロ腔ト哺乳運動……押田草子（三）  
所謂惡性腫瘍毒素ノ副腎、淋  
巴ノ系統、其ノ他一、二ノ器  
官ニ及ボス影響ニ關スル生物  
學的研究…………岡本さかき（六）  
臨床小話……………杉田鶴子（二）  
プールを語る……………兒玉琴枝（三）

## ○口繪

- 日本女醫會關西支部大會  
編輯委員の清遊（三寶寺池畔にて）  
オリムビツク招致に就て一言す  
吉岡彌生（一）

## ○會報

- 日本女醫會評議員會 岡本さかき女史學位論文  
通過 五十周年記念事業に就て 記念事業寄附  
金領收 萬國女醫大會第四回大會の宿題 會員  
動靜 事務所日誌……………（四）

## ○露臺

- 女醫の責任……………梅子（三）  
早雲山の道了別院……………すみ子（三）  
佐渡の今昔（その三）……………杉田鶴子（三）  
「石黒忠惠懷舊九十年」をよむ  
多川澄（四）  
女醫榎本住……………（四）  
編輯後記……………（四）

## 女醫五十年史を作るに就て

### 編輯後記

昭和十一年六月廿五日印刷  
昭和十一年六月三十日發行（非賣品）

## 御願ひ

日本女醫公許五十年を迎へました  
本會は、此機會に「日本女醫五十年史」  
を編纂して、過去の先哲女醫の血脈史  
を知ると共に、後進の人々の爲めにも  
残して置きたいと思ひます。  
すでに多くの方々、各地の諸姉より  
有益な資料を與へて頂いて居りますが  
尙ほ完成を期する爲には、皆様の御  
熱誠なる御後援と御助力による外はあ  
りません。どうぞ、此の五十年史に關係  
のある事物がありましたらば、早速  
本會事務所又は多川宛御知らせ下さい  
ませ。御ハガキ御電話下されば近い所  
は參上いたしても宜しく、何卒吳々も  
御願申上げます。

○女醫公許五十年祝賀會も滞なく済み、そ  
の記念號も漸く初校を終りまして初めて、  
ホット一息ぬいた所であります。何分平常  
の倍號でありますので多少遅刊いたしまし  
た事を御許し下さいませ。

尙ほ御通讀下さいました御感想、御氣附  
きの點など御洩らし下さらば嬉しく存じま  
す。

○五十周年記念事業寄附金は其後追々集ま  
つて居りますが、三千五百の會員を擁する  
日本女醫會の事業としてはまだ餘りに少な  
く思はれます。最近愛生園長光田博士も上  
京されて、非常に喜んで居られましたと承  
るにつけ、皆様の御奮發を希望して止みま  
せん。（七、二、たかわ）

東京市本郷區本郷二丁目三ノ六  
編輯者 多川澄子

東京市本郷區本郷二丁目三ノ六

印刷者 杉田鶴子 正  
東京市芝區愛宕町二丁目一四  
振替口座東京三一九〇〇番

發行者 谷本正

東京市目黒區鷺谷町三十九番地  
廣告申込所 大矢雅美

東京市本郷區本郷二丁目三ノ六  
發行所 日本女醫會雜誌發行所

電話小石川五七六六番  
振替口座東京三一九〇〇番

常磐印刷株式會社